

教科名 科目名		単位数	年次・コース	選択群	教科書・出版社名	副教材・出版社名
国語	現代の国語	2	1年 普通科 スタンダード	必履修	高等学校 現代の国語・ 第一学習社	新常用漢字必携パーフェクトクリ ア改訂版・尚文出版

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 読書や言語活動を通して、実社会生活で必要となる知識や技能を身につける。 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、自分の考えを他者に的確に伝えることができるようになる。 言葉が持つ価値への認識を高め、言語文化の担い手として社会に関わる姿勢を修得する。
評価の観点 評価規準	「知識・技能」 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。
	「思考・判断・表現」 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や共感する力、豊かに想像したりする力がある。また、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
	「主体的に学習に取り組む態度」 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。さらに、読書に親しむことで自己を向上させ、言語文化の担い手としての自覚を持つようとしている。
評価の方法	「知識・技能」 定期考査における基本問題や小テストで評価する。
	「思考・判断・表現」 定期考査における発展問題や授業内発表・成果物で評価する。
	「主体的に学習に取り組む態度」 提出物の内容や授業態度で評価する。

学期	学習計画および内容
1 学期	「『生きもの』として生きる」 ・筆者の提案する人間の生き方について、文章構成をもとに把握すると共に、内容や構成、論理の展開を的確に捉える。 「『本当の自分』幻想」 ・主題に至る論の構造を把握し、主張に説得力を持たせるための展開について考える。 「夢十夜(第一夜)」 ・「夢」という非日常性を持つ世界設定において、日々「自分」は何を根拠に物事を判断しているのかを読み解く。
2 学期	「水の東西」 ・日本の水文化に見られる特徴を用いながら、自国と他国との差異を受け止め、東西の文化について自分の考えを深める。 「ものごとば」 ・具体(例示)と抽象(意見)の関係を整理して論理構成を把握し、筆者が主張する言語の性質を理解する。 「羅生門」 ・下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。
	「『間』の感覚」 ・日本文化および日本人の行動様式についての文章を分析的に読み、対比構造を用いた論理の展開について理解する。 「現代の『世論操作』」 ・情報操作の具体例を通じて筆者が提起する課題を理解し、メディア社会に生きる者として問題意識を持つ。 「鏡」 ・恐怖体験の一つとして語られる、幽霊でも超常現象でもない、人の内面に潜む恐怖とは何かを読み解く。
3 学期	「不均等な時間」 ・具体的事例から一般論への展開と、対比の構造とを手がかりとして、近代化と時間の合理性との関係を理解する。 「ロビンソンの人間と自然」 ・「ロビンソン・クルソー」を例として取り上げた筆者の意図を踏まえ、自然に対する人間の態度について意見を持つ。

備考 ・履修条件 ・注意事項 等	
---------------------------	--